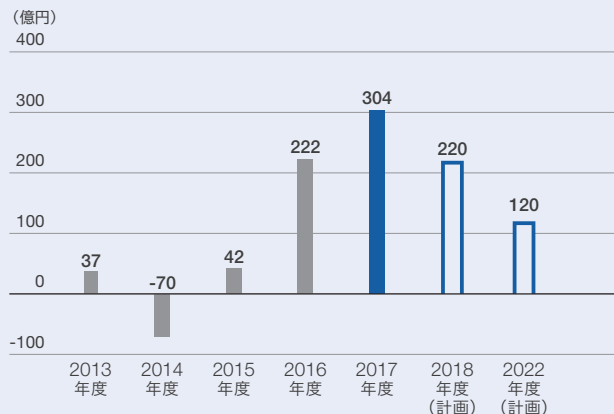


PETROCHEMICAL BUSINESS 石油化学事業



経常利益



強み

- 世界需要を牽引するアジアで一貫生産体制を確立
- 国内最大規模のエチレン生産能力を基盤としたコスト競争力(丸善石油化学)
- アジア最大級のパラキシレン生産能力を基盤としたコスト競争力(HCP)※

※Hyundai Cosmo Petrochemical. 韓国ヒュンダイオイルバンク(HDO)との合併会社。

新連結中期経営計画における事業戦略

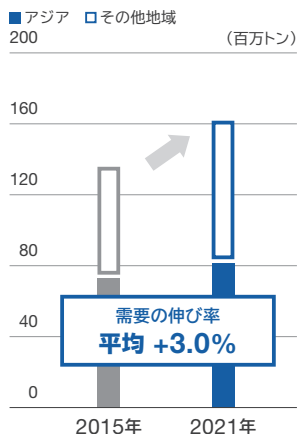
国際市場の拡大に対応し、石油精製－石化シナジーの享受と深度化、基礎品の競争力強化と機能品の新規事業拡大を進めます。

・エチレン、パラキシレンの需要増への対応強化

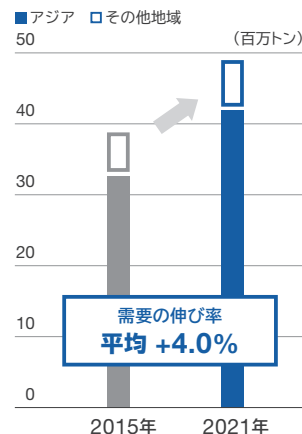
コスモエネルギーグループでは、国内最大規模のエチレン生産能力を誇る丸善石油化学、世界最大級のパラキシレン製造装置を保有するHCPがそれぞれ高稼働を継続し、高い競争力を有しています。世界の人口増を背景に国際市場は拡大すると見込まれており、石油精製－石化シナジーの享受と深度化、基礎品の競争力強化と機能品の新規事業拡大を進めていきます。

石油精製事業と丸善石油化学とのシナジーについては、コンサル会社を活用しシナジー案件の抽出を実施し、実際の実行に向けた準備態勢へ移行しております。主な案件は、原料および燃料の融通(エチレンプラントの原料多様化)、ユーティリティ(工場で使用する電力や水など)の有効活用、設備の合理化などで、更なる競争力強化をめざしてまいります。

世界のエチレン需要想定



世界のパラキシレン需要想定



出典：経済産業省「世界の石油化学製品の需要動向(2015-2021)」

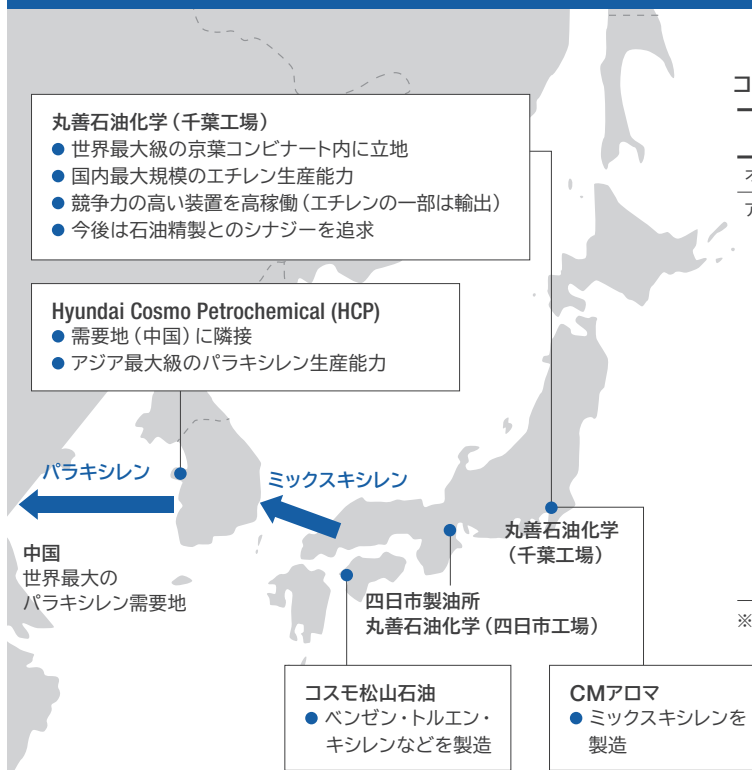


前連結中期経営計画の振り返り

HCPで新設のパラキシレン製造装置を安定的に稼働させるとともに、省エネルギー改造工事などによるコスト削減に取り組みました。また、連結子会社化した丸善石油化学とコスモ石油の製油所とのシナジーを追求することで競争力の強化を図りました。

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
Hyundai Cosmo Petrochemical			省エネ投資・合理化	市況変動に強い収益基盤の確立	
		新設パラキシレン装置稼働			
丸善石油化学				精製⇄石化シナジーの検討	
				連結子会社化	

コスモエネルギーグループの生産体制



コスモエネルギーグループの生産体制

項目	生産会社	生産能力 (定修の影響は含まない)	
オレフィン系 エチレン	丸善石油化学	※129万t/年	
アロマ系	パラキシレン	Hyundai Cosmo Petrochemical	
		丸善石油化学	60万t/年
		Hyundai Cosmo Petrochemical	25万t/年
	コスモ松山石油	9万t/年	
	計	94万t/年	
ミックスキシレン	コスモ石油 (四日市製油所)	30万t/年	
	CMアロマ	27万t/年	
	コスモ松山石油	5万t/年	
	計	62万t/年	
	アロマ系合計	274万t/年	

※京葉エチレン(丸善石油化学が55%を出資する連結子会社)の生産能力を含む

より良い社会の実現へ向けて —CSV (Creating Shared Value)—



生活必需品原料の安定供給

紙おむつ等の組み立てに用いられるホットメルト接着剤の原料製造

当社、丸善石油化学および荒川化学工業の3社で、水素化石油樹脂の製造および販売を行う新会社の3社合弁契約書を締結しました。水素化石油樹脂は、紙おむつ等の組み立てに用いられるホットメルト接着剤の原料として世界的に需要の成長が見込まれており、当社グループにおけるシナジーの創出による競争力強化策の第1弾として、3社による共同事業化を行います。

